

先物取引とビットコイン

仮想通貨の一つビットコインの先物取引が始まった。シカゴのマーカンタイエクスチェンジ（CME）でもビットコインの上場を検討している。CME と言えば、先物市場の聖地みたいなところだ。それが実現すればビットコインの市民権は格段に広がる。

マネーロンダリングに使われたり、取引所のビットコインの勘定が突然消えたりと、日陰者のイメージが強かったが、お天道様の下を堂々と歩けるようになる。

それにしてもビットコインの値動きは激しい。今年だけ見ても1月の終わりに1000ドルを超えたと思ったら、直近では17000ドルを超えた。仮想通貨というが、こんなに激しく変動する通貨はない。価値が常に不安定であれば決済通貨としては不適當だ。

以前ジンバブエの通貨が激しく変動（主に下落）してトマト一つ買うのも難しくなり、結局廃貨になったように激しい変動は通貨の機能を損ねる。

となると価値の保存手段としては適當なのか。すでにビットコインでビリオネアーになった人もいるくらいだから短期間で最も資産を増やした人も少なからずいるだろう。だがこれも変動が激しすぎてどうだろう。その点では通貨というよりもコモディティーに近い。

先物市場は本来ならばこうした激しい価格変動を円滑にする役割がある。シカゴの先物市場が創設されたときの趣旨は次の通りだった。先物市場ではヘッジ取引ばかりではなく多様な投機者が参加することで、売買のタイミングが多様になり価格変動が円滑になる。

その点からいえば一昨日に始まったビットコインの先物取引で15%も上昇したのは、参加者の多様性が乏しいことによる。

現在のビットコイン取引は中国人が日本の取引所でやっている額が最も多いと言われる。多様性に乏しい市場だ。

CME が上場した場合、他の商品と同様に多様性を呼び込むことができるかがビットコインの今後を判断する上で重要になる。

現在のビットコインの値動きを見てどうしても血が騒ぐ人は、価値が10分の一以下になってもいいくらいの金額で取引するのがいいだろう。